

茶山賛歌



○茶山賛歌  
菅茶山の漢詩による「ふるさと中条」  
○江戸漢詩による歌曲集より  
声楽家 奥野 純子さん  
ピアノ 山岡 珠代さん

前口上

作詩 山田拓志 補 奥野純子  
作曲 芝沼紀子

神辺名物 数々あれど  
音に聞こえた廉塾は  
瀬戸内海の特別史跡  
敵島神社と同格の  
歴史の誉れ 謡われた  
貴重な郷土の宝物

茶山先生 儒学の大家  
江戸は中期の漢詩人  
郷土を歌った数百の七言絶句  
は

現代の私たちにもそのまま  
気持ちの分かるものばかり  
我が中条は 今なお

先生の詩の その中に  
箱には書や絵が収められ  
机には幾冊もの本が置かれた  
百姓の家がある・・・と

当時の中条 偲ぶれば  
学ある詩人が多かった  
茶山先生 散歩の時に  
寺や農家に立ち寄って  
みなと共に 詩を作り  
楽しき時を 過ごしたと  
詩にも詠まれて 今日に  
歌い継がれて 永久に  
歌い継がれて 永久に・・・

黄龍山に登る

現代語訳詩歌詞 佐々木龍二郎 補 奥野純子  
作曲 石橋元嗣

おひさま 西に見えかくれ  
お山の緑も ぼんやりと  
遍照寺ついでここかしら  
鼻歌まじりに 登っていたら  
「おっと あぶない」  
ぐらつく岩が足の下  
こわごわ下界をのぞいてみると  
広がる谷間は 松の波



黄龍山遍照寺全景

漢詩「登黄龍山」 『黄葉夕陽村舎詩』後二―十二

彩翠模糊晚照春 彩翠 模糊として 晚照 春く

不知何處是黄龍 知らず いずれの処か是れ黄龍

狂譎直踏危巖上 狂歌 直ちに踏む 危巖の上

屐底驚濤萬壑松 屐底 濤に驚く 万壑の松

この他 漢詩「即事」「上寒水寺路上」「黄龍山」  
をわかりやすい現代的歌詞に訳された曲を披露された  
さらに、「江戸漢詩による歌曲集」から「冬夜讀書」  
『詩集後三―十五』『蛩』『詩集後七―一』『遊吉野  
(芳野)』『詩集』後八―四』など漢詩4曲を歌って  
いただきました。

これらの漢詩の作曲は作陽短大名誉教授矢内直行氏  
によるもので、今回初めて披露。矢内先生は当日会場に  
足を運ばれており、会場からはお礼の大きな拍手があ  
がった。詩吟等で聞くあつても、ピアノ伴奏での漢詩  
は初めてで大変興味深く聞くことができた。

目次(主なもの)

菅茶山生誕275年祭挨拶	1
来賓祝辞	2
茶山賛歌と記念講演「菅茶山と廉塾」	3
菅茶山生誕275年祭の様子	5
第82回山陽新聞奨励賞 文化部門受賞	6
茶山詩の世界	7
廉塾あれこれ	8
地域資源の活用に向けて「廉塾・菅茶山旧宅」見学	7
茶山墓地に説明版設置される	8
顕彰会だより	7
総会と記念講演「菅茶山の文人ネットワーク」	6
冊子『茶山ボエム絵画展三十年のあゆみ』発刊	9
菅茶山先生墓参の集い	9
菅茶山顕彰会学習習会	10
第4回茶山ボエムハイク「中条を歩く」	10
講演会・展示会	12
菅茶山記念館収蔵作品展 春・夏・秋・冬	13
特別展「菅茶山と四条派の絵師たち」	13
広島県立歴史博物館「菅茶山関係資料展」	13
「廉塾の器物」 「菅茶山と朝鮮通信使」	14
博物館大学「菅茶山関係史料に見る吉備津神社」	14
神辺交流館 講演会「菅茶山とゆかりの画人たち」	14
講演会「神辺本陣の現存は奇跡か」	15
「広報ふくやま」歴史散歩「茶山の足跡を訪ねて」	15
黄葉だより	15
神辺本陣「動く江戸空間」	16
第6回地域遺産フォーラムE「神辺・神辺遺産」	16
2023年堂々川10大ニュース	16
福山大学第3回文化フォーラム「中世の福山の文 学的背景」	16
ぶらり散歩しませんか。「神辺宿の茶山詩碑」	19
募金(廉塾の修復)に協力	19
茶山ボエム絵画展	19
2023年表彰式と様子	19
作品展の開催	20
編集後記	20

記念講演「菅茶山と廉塾」

講師 西村直城先生

広島県立歴史民俗資料館学芸課長

一、菅茶山について

- ・漢詩人 漢詩集『黄葉夕陽村舎詩』教育者。廉塾
  - ・国特別史跡「廉塾ならびに菅茶山旧宅」
  - ・宮島厳島神社（国特別史跡＋特別名勝）と並ぶ
  - ・「菅茶山関係資料」は国重要文化財に指定された。
- \*これらは誇り得る類い稀なステイタスである。



頼祺一氏や広島大学の協力を得て、茶山関係資料の調査に携わった。2004年、文化庁の指示を受け、中途、東北地方大震災のため中断のやむなきに至ったが、細やかな資料の精査を続け、遂に2014年、国重要文化財の指定に漕ぎ着けた。

二、何故『廉塾』は教科書に載らないのか

全国の主な私塾、適塾（大坂・緒方洪庵）懐徳堂（大坂）松下村塾（萩・吉田松陰）、鳴滝塾（長崎・シーボルト）咸宜園（日田・広瀬淡窓）などは高校の日本史教科書に掲載されているが廉塾はない。篠崎小竹は、『遠思楼詩抄』初編序で、「淡窓は菅茶山と並ぶ有名な教育者で、ともに詩を重んじ、詩を用いて人材を育成した」と評している。

三、菅茶山と広瀬淡窓

共に江戸時代後期の儒学者で漢詩人として名を成し教育にも尽力した共通点の多い菅茶山と広瀬淡窓を比較してこの「何故」に迫りたい。

○茶山く父 備後神辺 菅波樗平 農業・酒造業

学歴、茶山19歳 市川某に古文辞学を学ぶ

24歳 那波魯堂に朱子学&和田泰純に医学を学ぶ

33歳 京阪地方遊歴、混沌社中と交遊

享和元年 福山藩儒となり藩校弘道館に出講

文化6年 『福山志料』編纂

文化12年 出府中、松平定信侯に招待される

文政2年 『風俗御問状答書』完成

○淡窓く豊後国日田 廣瀬三郎右衛門 代官所御用達

商人。中井竹山・履軒と知己

8歳 長崎 長福寺法幢上人らに学ぶ

16歳 福岡 亀井南冥・昭陽に学ぶ

18歳 大病で帰郷

文政2年 日田代官用人格

天保元年 代官所が塾経営に干渉する

天保13年 幕府が苗字帯刀を許す・大村藩に出講

弘化元年 豊後国府内藩に出講

四、廉塾(菅茶山) vs 咸宜園(廣瀬淡窓)

①施設(名称) 設備

○茶山

安永4年、居宅に開塾↓天明年間「金栗園」

寛政3年、前年新築の建物で開塾「黄葉夕陽村舎」

寛政8年、建物等を藩に献上↓「神辺学問所・廉塾

○淡窓

文化2年、長福寺学寮に開塾、「成章舎」桂林荘」

文化14年、咸宜園と改名

文政4年、咸宜園東塾落成

②学区・教育内容・教育方針・規約&心得

塾生は廉塾・咸宜園とも全国から集まる。平等主義

(身分・年齢・学歴不問)を取り、漢籍の講釈が中心

○廉塾く詩文は月6度の詩文会だけ(義務とする)

「廉塾規約」(45項目、塾・寮での共同生活重視)

○咸宜園く詩作を奨励「葵卯改正規約」(82項目)

入塾後は徹底した能力主義で評価。「月日評」明治

30年まで存続、門下生も高野長英、大村益次郎、上

野彦馬(日本最初の写真家、龍馬撮影)、清浦奎吾

(1924年内閣総理大臣)

五、後継者

○茶山(廉塾)

寛政12年 末弟恥庵死去

文化8年 都講頼山陽出奔・甥萬年死去

文政6年 都講北條霞亭死去

文政10年 姪孫・菅三を養子

文政10年 80歳で死去

○淡窓(咸宜園)

天保元年 弟旭荘に塾主を譲る

天保7年 旭荘東遊、再び塾経営

弘化元年 咸宜園の都講矢野範治(青邨)を養子とし塾を継がせる

安政3年 旭荘の長男・林外塾を継ぐ

安政3年 74歳で死去

六、茶山と淡窓の交流

寛政9年 淡窓15歳、50歳の茶山の名と詩を知る。

福岡遊学中、茶山が「詩の名家」と知る。

淡窓27歳、自作詩の批評を人を介し茶山に依頼

淡窓45歳、茶山揮毫の扁額「淡窓」を書斎に掲げる

文政10年、淡窓46歳、弟旭荘が病床の茶山を訪問、

数力月間介護にあたる。旭荘が辞するにあたり、淡窓

あての漢詩と遺品として硯を托す。

七、残された課題

幕末以後、天領の塾と福山藩の郷校の位置付けが関

係したのではないか。また、塾としての評価より茶山

は漢詩という文学面での評価がなされているのではな

いか。

(顕彰会顧問 上泰二)

# 菅茶山生誕 275 年祭の様子



廉塾バラの展示



朝の打ち合わせ



袋詰め～ボランティアの協力



さあ、受付開始



茶山ポエム絵画の展示



会場の様子



記念講演 西村直城先生



藤田会長あいさつ



閉会挨拶 黒瀬副会長



司会 松岡理事  
開会宣言 武田副会長

記念講演『菅茶山と廉塾』（要旨別項）では茶山と並ぶ教育者で詩を用いて人材育成を目指した共通点の多い咸宜園主廣瀬淡窓の生き様を対比しながらの講話に出席者一同興味深く謹聴した。

（顕彰会顧問 上泰二）

10月28日、菅茶山生誕275年祭を神辺文化センター小ホールで開催した。この会は5年毎に開催する「菅茶山の遺芳・遺徳を偲び、後世に伝える」定例事業。今回は「茶山賛歌」（奥野純子氏独唱）及び記念講演『菅茶山と廉塾』（講師西村直城氏）併せて会館ロビーに「茶山ポエム絵画」「廉塾バラ紹介」を展示。また、入場者には顕彰会作成の冊子『茶山ポエム絵画展30年の歩み』を配布した。入場者は予想を上回る120名。山陽新聞の取材を受けたこともあり、岡山県からの参加もあった。今日に至るまでの社会活動の実績とマスメディアによるオーベイションの効果も絶大。内実とも好評。声楽家奥野純子氏の「茶山賛歌」では倉敷芸術大学矢内直行教授によるオリジナル作品（菅茶山の）江戸漢詩による歌曲集より（新曲）が披露される。ステージ上にはスクリーンが設置され、茶山詩が映し出され爽快・新鮮であった。

## 275年祭参加者数

来賓	24
会員	27
講師等	5
一般	64
合計	120

## 一般参加内訳

町内	24
町外	27
不明	13

菅茶山生誕275年祭成功裏に終わる

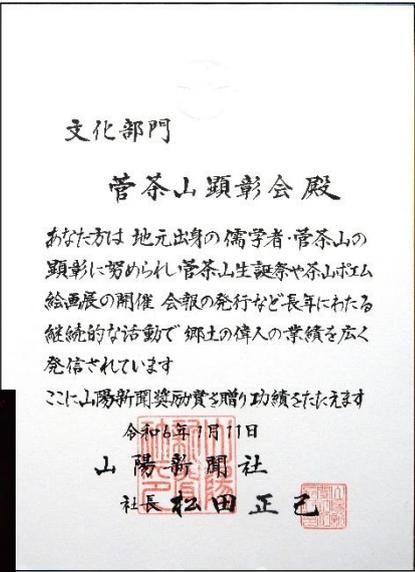
### 第82回山陽新聞奨励賞 文化部門受賞

山陽新聞社が毎年行う「文化、社会、学術、産業などの分野で、地域社会に貢献した個人・団体に贈り、功績を讃える山陽新聞賞・山陽新聞奨励賞」の発表があった。

菅茶山顕彰会は「山陽新聞奨励賞・文化部門」に選ばれ、1月11日には贈呈式が山陽新聞本社(岡山市)で開催され、藤田会長と武田副会長が出席。賞状・記念メダルと賞金を頂いた。

賞状には「菅茶山の顕彰に努められ菅茶山生誕祭や茶山ポエム絵画展、会報の発行など長年にわたる継続的な活動で郷土の偉人の業績を広く発信されています」とある。

今回の受賞は、誠に光栄であると共に、山陽新聞社の紙面により、菅茶山を広く知ってもらおうよい機会となり、今後の活動の励みになるものである。



賞状と記念メダル

### 奨励賞 文化部門受賞



2023. 1. 13、山陽新聞奨励賞について記載する山陽新聞記事

#### 受賞理由

当代随一の漢詩人と評された江戸後期の儒学者菅茶山(1748〜1827年)。偉人の業績を後世に伝えようと、出身地の福山市神辺町地区で顕彰活動に長年励んでいる。

1986年の没後160年祭を契機に、有志が翌年結成した「菅茶山遺芳顕彰会」が前身。識者を招いた学習会、会報などで業績や人柄に迫るほか、現在は「生誕祭」に切り替わった記念式典を5年毎に開く。

子どもと茶山の懸け橋となる公募展「茶山ポエム絵画展」は2022年度に30回を迎えた。現代詩を「茶山ポエム」と称し、「冬夜読書」などの代表作から偉人への敬愛と郷土愛をはぐくもうと1993年に始めた。高校生以下がみずみずしい感性で描いた応募作は近年毎回3千点を越え、市内の巡回展で市民の目を楽しませる。

68人の会員は大半が60代以上と高齢化が進み、ウェブサイトをSNS(交流サイト)で情報を発信し、会員獲得を目指す。藤田卓三会長は「没後200年の節目が近づいている。晩年まで精力的に活動した茶山のように、息の長い取り組みを続けたい」と語る。

(2024年1月13日山陽新聞紙面より転載)

### 廉塾まつりが開催される

菅茶山生誕275年祭とコラボ  
日時10月21日(土)

場所 廉塾並びに菅茶山旧宅を中心に  
午前 二弦琴や平家琵琶演奏、詩吟、お笑いステージなど  
午後 踊り隊、お話と劇、お笑いステージなど

会場内には、うずみ寿司、山菜おこわ、おでん、コーヒーなども販売され、多くの人でにぎわう。



また、廉塾保存整備工事の見学会が4回実施され約120余名が参加。修復作業の進捗状況の説明を福山市文化振興課職員から聞く

○西福寺では「模型とパネルで知る神辺の歴史」展が行われ100名超が訪れた。

○「菅茶山顕彰会」かんなべ街並み格子戸展の実施  
七日市・三日市通の民家に、茶山ポエム絵画を展示

し茶山ポエム絵画の取り組みも紹介する  
○関連行事「ふるさと体験史めぐり」

菅茶山の詩碑めぐりが実施され、西福寺・光蓮寺・万念寺等の詩碑を巡る。また、三日市通の古民家や「なまこ壁」などの街並みを見学。さらに茶山の漢詩を読む体験を行う。



廉塾のポエム絵画展



街並みウォークと格子戸展

茶山詩の世界

◎菅茶山子どもを詠う

茶山詩は農村の様子や子ども様子を詠った詩が多い。西原千代氏は著書『菅茶山』で『黄葉夕陽村舎詩』中で「子どもを詠う詩」は88首あると紹介されている。これらの詩を読むと思わず微笑んでしまう。前号に続き紹介する。

(詩集とあるのは、黄葉夕陽村舎詩集)

○即事 一 詩集 後巻四一六

垂楊交影掩前楹 垂楊影を交へて 前楹を掩い

下有鳴渠徹底清 下に鳴渠の 徹底して清める有り

童子倦來閑洗硯 童子倦み来りて 閑かに硯を洗えば

奔流觸手別成聲 奔流 手を触れて 別に声を成す

〔楊〕柳。〔楹〕柱、前楹で、門。〔渠〕みぞ、小川。〔倦〕うむ、あきる

【大意】柳の枝が交錯して門柱を覆い、その下をせせらぐ清流が流れている。水は底が見えるほど澄んできれいだ。手習いに飽きた子どもたちが出てきて硯を洗おうと水に手を浸すと、流れは子どもたちの手に触れて、流れの音がちよつと変わったようだ。

【情景】高屋川から引いた水路が廉塾の中を流れている。手習いに飽きた子どもが、筆洗い場に出て来て硯を洗おうと水に手を浸すと流れの音が変わった。茶山は、流れてきた水が子どもたちの手に触れてその音がちよつと変わったさまを敏感に捉えている。「手を触れて別に声を出した」のは子どもではなく、流

れの方である。文化9年65歳の作

○偶成 詩集遺稿 卷五八

堤防暴漲已三回 堤防の暴漲 已に三回

又見黄泥没徑苔 又見る黄泥 徑苔を没するを

童子廢書忙出戸 童子 書を廢して 忙しく戸を出で

直從草際捕魚來 直ちに草際に從つて 魚を捕へ来たる

〔暴〕激しい、度をこえる。〔漲〕満ちあふれる。

〔徑苔〕小径の苔。〔廢〕やめる、すてる。〔從〕近づく、そばに行く。

【大意】堤防から水があふれること已に三回、また小径の苔が泥水にかくれてしまった。子どもらは手習いをやめて忙しく戸外に出て行って、道端の草をたよりに歩き回って魚をとらえて戻ってきた。

【情景】また大水が出た。泥水は川からあふれ道が浸かっている。子どもたちはよく知っている。大水が出ると、鯉や鮒などが流されないように草際にいるので捕まえやすいことを。魚をとらえて意気揚々と廉塾に帰ってきた子どもたちの笑顔が見えるようである。文政8年78歳の作

○夏目即事 詩集遺稿 卷六一六

郊雲四散夜澄清 郊雲四散して 夜澄清

頭上銀河以有聲 頭上の銀河 声有るに似たり

隣稚貪涼猶未寢 隣稚涼を貪り 猶未だ寝ねず

逐來吟杖問星名 吟杖を逐い来たつて 星名を問う

〔澄清〕すんで清らかなこと。〔稚〕若い、幼い。〔貪〕よくばる。〔吟杖〕杖について詩作にでる。

【大意】郊野の空をおおっていた雲が四散して夜の空は澄んで清らかだ。頭上の銀河から声が届きそうに近くに見える。隣の子は暑くてまだ寝ようとせず涼みたいとみえる。散歩する私についてきて星の名前を聞いたのだした。

【情景】夏の夜の農村の風景である。熱帯夜、夜の方が清々しい。そこで杖をついて出かけると隣の子がついて来て星の名前を聞く。おじいさんと孫といった雰囲気夏の夜である。文政九年79歳の作

○菅茶山詩集 集外

童道山村饒蝮蛇 童は道う 山村蝮蛇饒しと

腥風滿徑草交加 腥風徑に満ちて 草交も加わる

世間畏路君知否 世間の畏路 君知るや否や

巨蟒成群礪齒牙 巨蟒群を成して 齒牙を礪ぐ

〔道〕言う。〔蝮蛇〕まむしやあぶ。〔饒〕多い。

〔腥〕生臭い。〔交〕かわるがわる。〔畏〕恐ろしいめにあう。〔蟒〕大きなへび。〔礪〕研ぐ。

【大意】子どもは(弟子たち)この山村には蝮やあぶが多いと言う。まことに生臭い風が草深い小径にざわついて不気味だ。しかし、世間にはおとしめようとする者がいることを君は知っているだろうか。大蛇が群れをなして、食い殺そうと牙を研いでいるのだよ。

【情景】詩集にはない。「山村にはマムシやアブが多い」としているが、内容からすると社会や政治に対する批判である。「言動には注意しろよ。非道な非難中傷されたり、足を引っ張ったりする輩がいるかもしれない」と。若い時期に「政治批判詩」を多く書いているので、その時期の作品であろう。

◎菅茶山「輓の対潮樓」に上る  
 昨年、研修旅行で対潮樓を訪ねる。その際茶山詩を紹介してないので、ここに紹介する。

対潮樓 詩集前四十二二十一

評品江山人不同 江山を評品すること人々同じならず  
 傍觀遠客眼應公 傍觀の遠客 眼 応に公なるべし

望看朱棟懸天平 望み看る 朱棟天平に懸かるを

來見蒼岳挿水中 來り見る蒼岩 水中に挿すを

島嶼斷連松石影 島嶼斷連す 松石の影

雲濤豁達帆檣風 雲濤豁達す 帆檣の風

休言邦俗誇郷土 言う休かれ 邦俗の郷土を誇ると

果爾靈區甲大東 果して爾り 靈區大東に甲たり

【大意】江山を評品する人は、皆それぞれ違う。客観的にみる遠方の客の眼は公平に違いない。遠くを見やれば、朱色の棟が天中に懸かり、近くを見やれば、蒼い岩が海中に刺さっている。途切れ連なる島々に松や石が影を落とし、雲は波のように広がり帆柱は風を受けて広がる。言ってくれるな、日本人が故郷を自慢していると。やっぱりそうだ、神々しい景色は日本一だ。寛政4年46歳の作



麻塾あれこれ

一、地域資源の活用に向けて

「国特別史跡麻塾及び菅茶山旧宅」見学会実施される  
 7月13日、修理中の麻塾の見学会が神辺地域振興課主催で実施された。参加者は8名。説明は神辺観光協



会のボランティアの倉田さんが担当。豊富な知識と分りやすい内容であった。  
 茶山先生生誕275祭にあたり、様々な企画が実施される予定。関連行事の一つである。

二、茶山墓地に説明版が設置される

5月、念願だった茶山墓地に説明板が設置された。どの屋宇が茶山墓であるか分かりずらかったが、これで解決。

説明板には、来歴の英語表記もある。さらに、墓碑の説明もあり、展墓の際には有効である。惜しむらくは、多くの屋宇が荒れていることである。



顕彰会だより

一 定期総会と記念講演を開催

5月13日、定期総会が神辺商工文化センターで開催された。議長には上泰二さんが選出され、令和4年度事業・決算報告並びに会計監査報告、令和5年度事業計画・予算案、役員体制などが審議された。

会長より「今年度は菅茶山生誕275年にあたり、神辺文化会館で式典を計画している。会員さんのご協力をお願いしたい」と要請があった。  
 令和5年度新役員体制は次の通り（敬称略）

- 顧問 鶴野謙二・上泰二・吉澤浩一
- 会長 藤田卓三
- 副会長 武田恂治・黒瀬道隆
- 理事 川崎行輝・小林貞子・嶋田時市  
羽原知子・松岡明美・山下英一
- 事務局長 武田恂治（兼務）
- 会計 皿海弘雄
- 監事 安原美津子・山田俊二

二 記念講演

演題 「菅茶山の文人ネットワーク」

日本近代化への文芸的公共性の状況

講師 神辺宿文化研究会副会長 菅波哲郎  
 はじめに

江戸時代の私塾は全国的に存在した。九州日田の咸宜園（広瀬淡窓）は国指定であるが、旧宅は残っているが当時の塾は残っていない。茨城県の息耕堂（久保木竹窓）は当時の家屋はなく、遺品が県の指定史跡となっている。これに比べて麻塾は当時の塾だけでなく茶山の旧宅も遺っており、その存在意義は大きい。昭和28年国の特別史跡に指定されていることからわかる。

(一) 菅茶山の詩のサークル 知的共同体

菅茶山 麻塾や旅先での詩会

- ・ 多様な文人が江戸・上方の往来の節を訪ねる。
- ・ 大坂・京・江戸への旅で多様な文人と交流。
- ・ 詩会すなわち「知的共同体」への参加
- ・ 自ら学ぼうとする人々が自発的に作った組織
- ・ 組織成立の条件 ↓ 文芸的公共性を必要とする
- ・ 詩、和歌、俳句、狂歌などを嗜む者に、誰に對しても開かれていること。

(二) 神辺宿や周辺地域の知的共同体

・ 藤井暮庵宅の詩宴（文化10年3月14日）

頼春水・道光上人・北條霞亭・彭城東作  
河相君推「松風館十勝」

茶山が著名な儒者に詩文を請い寄せられた

頼杏坪、倉成善司、赤崎彦禮、柴野栗山 等

(三) 備前地方の知的共同体

① 武元登々庵の書会

・茶山に「黄葉夕陽邸舎」の陶板を贈る。

・大森家(尺所村)で書会く武元君立(閑谷校

儒者) 大森巳之助、大森武兵衛(豪農) 万代

秀閑(医師)等

② 備前岡山の梅華吟社

・詩集「詩筵一聚」→茶山は「序」を求められ

小原梅坡(岡山藩儒) 井上四明(岡山藩江戸詰

儒者) など14名が詩を寄せる。

③ 岡山吟社と「展観書画録」

会主は宇野蘭軒(倉敷画家)、「展観書画会」

は井上四明・中村岳州などの岡山藩儒、明石退

蔵・武元北林などの豪農や豪商、浦上春琴・佐々

木逸齋等の絵師で出品者の身分や職業は多様で

身分を超えた人々が漢詩や和歌、絵画を通して

交流している。

(四) 旅先で交えた知的共同体

① 柴野栗山邸での茶山主催の詩画会

参加者 柴野栗山・尾藤一洲・古賀精里・頼杏

坪・谷文晁・鈴木芙蓉など儒者や絵師

② 北條霞亭と恒心社

・山口凹巷(伊勢山田)が盟主

・廉塾都講となった北條霞亭は伊勢の人で、佐藤

子文(御師)など恒心社の人々と交流

③ 松平定信と「南湖名勝図並詩歌」

・南湖は白河市にあり、松平定信が造った日本最

初の公園とされる

・景勝地17景を選定し、和名は公家や諸大名か  
ら、漢名は幕府や諸藩の儒者に詩文を請うた。  
まとめ

(五) ① 文学、医学等を含めた

広い意味での学芸を媒

介とするコミュニケーション

シヨンのネットワーク

が成立する。

・身分や所属を超えた

「文芸的公共性」を共

有する成員間の平等性

の強い知的共同体と言える

② 「政治的公共性」は「文芸的公共性」に胚胎し

た。

・例 阿部正弘はペリー来航への海防策を、幕臣

諸大名・家臣・民衆に意見を求める

・身分や所属に関わらず人材の登用

・幕末の危機的な政治状況に対応する政治戦略の

一環として権力分立制と議会制の観念が浮上

(文責編集子)

三、冊子『茶山ポエム絵画展三十年の歩み』発刊

「茶山ポエム絵画展」が始まって30回を迎えた記

念としての発刊にこぎつけた。

理事川崎行輝氏が編集長を

務めA4判50頁に仕上がっ

た。冊子は顕彰会会員を始

め、市内の保幼小中高にも

寄贈し、「菅茶山生誕27

5祭」の参加者にも配布された。



茶山ポエム絵画展の歴史は、1995年の第1回  
には、小中高生から637点の応募があり、優秀



作品は菅茶山記念館やふくやま美術館等にも掲示さ  
れるなど広く啓発され今日に至っている。

絵画展の淵源は『まんが物語 神辺の歴史』(発行

神辺を元気にする会) 中に、茶山詩を現代風にアレ

ンジした詩が掲載されたのが始まりである。さらに、

茶山詩を子ども達にもわかりやすく現代語に訳す作

業が会員の手によって進められ、現在までに40数首

が準備されている。

21回から、主催が菅茶山山顕彰会から菅茶山記

念館へと継承され、菅茶山顕彰会は共催と形を変え

たが、毎年保幼小中高から3,000点を超える

作品が届けられる。

啓発活動として、街なみ格子戸展、医院・歯科医

院、神辺図書館、福山市役所などにも展示する。

四、菅茶山先生墓参の集い

○茶山墓地清掃

8月6日、墓前祭に向けて役

員8名が墓域の清掃を実施。

墓域内の大桶が伐採されたの

で、雑草の繁茂すること夥しい。

朝から猛暑の中、草刈りや落葉

の清掃に取り組む

○8月13日早朝、墓前祭を実施。

藤田会長以下6名が展墓。

霊前に香を供え冥福を祈り、茶

山賛歌一を斉唱。

屋宇改修で石碑全容の写真が撮

られたので、石碑の紹介と碑文の

学習を行う。また、頼杏坪に託

した茶山先生の遺言とその内容

についても説明があり、有意義であった。



五、菅茶山顕彰会学習会

◎第一回学習会 6月17日 菅茶山記念館

『茶山ポエム絵画展 30年の歩み』発刊を記念して、その取り組みと経過を学習した。参加17名  
〔一〕「ポエム絵画展の軌跡」

説明 川崎行輝理事、藤田会長

○1993年、第1回絵画展を開催。街なみ格子戸展、広島県庁展、町内医院、歯科医師展などを取り組み、10周年には「廉塾ポエム祭り」が開催された。絵画応募数は3000点を超えた。

○2013年 主催が菅茶山記念館に移行し、顕彰会は共催となる。

ポエム絵画は海を渡り、ミクロネシア連邦ボンペイ島に紹介されるなど、多くの場所で絵画が披露され、茶山ポエムが紹介されてきた。



○子どもたちにわかる現代語訳を届ける。

子どもたちがイメージしやすい漢詩（梅・蝶・ホタル・あさがお）を選び、現代語訳を提示し、感じのままを絵にしようという取り組み。詳細はホームページに記載している。

〔二〕ポエム展で使われる漢詩を学ぶ 黒瀬副会長

○「梅」

・子どもたちに提示した詩  
山の谷間の奥深く  
小さな村があったんだ  
家は四・五軒 さみしいな  
ところが村人 梅の木を植えた  
それから後の 谷間の春は



2022年 幼稚園児作品

花見の人で 大にぎわい

原詩・読み下し 『詩集 後五―一』

溪村三五戸 溪村の三五戸

一向絶風塵 一向 風塵を絶す

自種梅花後 梅花を種えて自り後

春來引外人 春來 外人を引く

【大意】谷あいの三戸か五戸のさみしい村は、俗塵から離れて生活している。ところが梅の花を植えてより後は、春が来れば方々から花見の人が来るようになった。

○「晩秋スケッチ」

・子どもたちに提示した詩

午後の陽は 小春日和のゆるゆると暖かく

されど草むらを歩けば 露の華なお消えずして

黄なる紫なる 枯れ萎れし花の入り乱れて

秋の名残の色模様

かまきりひとつゆるゆると

蘆の穂に止まりて わが立ち止まるのをじっと見る

やがてゆるゆると 蓼の花に移る

原詩・読み下し文 『詩集後七―九』

午暖叢間尚露華 午暖かにして 叢間なお露華あり

残黄葦紫相交加 残黄葦紫 相交加す

蟪蛄熟視人來立 蟪蛄 人の来りて立つを熟視して

徐自蘆花移蓼花 徐ろに蘆花自り蓼花に移る

【大意】秋がふけたといっても日中は暖かく草むらにはまだ露がある。

黄色い花はすでに咲き崩れたのや老いぼれた紫の花などが相乱



2014年 小6作品

れて名残の秋を語っている。蟪蛄が立って見ている私をじっと見ていたが、ゆっくりゆっくりと蘆の花から蓼の花へ移っていった

◎第二回学習会 2月11日 菅茶山記念館

○「山陽新聞賞・山陽新聞奨励賞」受賞について。

○ポエム展で使われる漢詩を学ぶ 黒瀬副会長

「雪の日」

・子どもたちに提示した詩

北風ピューピュー

雪花 吹き上げ吹きおろし

渦巻つくつて空かける

村の小道はカチンコチン

霜のおけしやう 昼なおくずれず

原詩・読み下し 『詩集遺二―一三』

北風吹雪片 北風 雪片を吹いて

亂舞半空漂 乱舞して 半空に漂う

沙径牢如鏡 沙径 牢とし鉄の如く

晨霜午未消 晨霜 午 未だ消えず

【大意】北風が雪を吹き上げ、さらに渦巻を作って吹き荒れる。村の小道は鉄のごとく凍って、昼になっても解けようとはしない。

・「御領山大石歌」も学習する。

六、第四十一回 茶山ポエムハイク

「中条地区をあるく」

主催 公益法人ふくやま芸術文化財団菅茶山記念館

共催 菅茶山顕彰会

日時 2023年11月23日(木・祝日)

コース 中条公民館→廣山寺・圓通寺→象山献灯→松風館十勝碑林→聖上御即位記念田碑→淑徳女学校



2022年 小4作品

跡く中条八幡神社く算大道の墓く地神さんく中条公民館

ガイド 岩森逸美(郷土史家)

黒瀬道隆(菅茶山頭彰会)



中条八幡宮にて



「上廣山寺途中作」を解説

茶山ポエムハイクに同行して

菅茶山頭彰会副会長 武田恂治

12月が近づいても気温が20度を超える日が続く中、中条を縦断する茶山ポエムハイクが開催された。このコースは昨年、雨天中止になっていたコースを再現したもので、2年越しのハイクである。

21名の比較的高齢のハイカーは、中条交流館に8時30分に集合。好天に恵まれて元氣よく出発。

まず、北に登り伊地の廣山寺と圓通寺へ向う。ガイド役は中条学区の生き字引たる岩森逸美さん、頭彰会の黒瀬道隆さん。

一行はかつては中条銀座と呼ばれ、神石郡からの米や野菜・炭・薪等が福山・神辺方面へ運ばれる往還道だった道を登る。備後でも、中条は幕府の直轄地(天領)で随分繁栄していたとのこと。途中黒瀬さんが、これから行く廣山寺と圓通寺について、寺には山号があることなどをクイズ形式で問いかけ、正解者には賞品の「アメ」というゲームに一同盛り上がる。

玄洞山廣山寺では、住職から寺の歴史を聞く。唐から帰国した空海が建立したと伝えられ、その後盛

衰を経て1288年讃岐国「善通寺」の僧侶・宥鑊上人が中興。「西國寺」(尾道)「栄明寺」(府中)「法身院」(上下)と同時に再興し「廣山寺」と合わせて「備後四院」と称したそうである。お茶の接待は歩き疲れた体に嬉しかった。

次は隣接する玄洞山圓通寺。平安時代に創建された真言宗の寺院で、本尊は聖観音菩薩。文明三年(1471)、廣山寺に関する古記録には二カ寺七坊の末寺、または塔頭を有していたことが記されており、圓通寺もそのうちに入るとの説があるのとである。

茶山詩にある「圓通寺同諸子賦」は、倉敷の圓通寺ではなくこの圓通寺であり、「茶山の日記」に茶山一行が訪ねている記録があると説明を受ける。

次は西中条・山田にある松風館跡を訪ねる。ここには茶山が揮毫した「象山献灯」があり、この燈籠の高さは135cmあり、文化13年(1826)河相君推が建てたものである。北面に「やわらぐる光をここにあらわしてうつすともしび神もみそなへ」の和歌が刻まれている。

河相君推は備中国井原村の代官猪原幸右衛門の次男として生まれ、河合家の娘通知の夫として入り婿となる。河相家に入った頃が全盛期で、酒造業を営む等豪農。君推は「松風館」という客殿を建て、茶山や近隣の文人や僧侶などを招待して詩会や月見の宴を催していたと言う。

松風館は、君推が山田谷の邸宅の庭に珍木奇石を配し、池・溪・橋を造り池亭を設け茶山に依頼し、邸内十勝を柴野栗山・亀田鵬斎・山本北山・頼杏平・菅信卿・倉成龍渚・赤崎彦禮・岩瀬荷沼・柴源・菅茶山ら名士に揮毫してもらい、それらを木や石に刻んで設置し「松風館十勝」と称したとのこと。

聖上御即位記念田碑へ。大正天皇が即位された際、即位の賜りとして中条尋常高等学校に学校田を寄付されたことを記念して大正5年(1916)1月24日に建立とのこと。

次に備後地域では三番目に創立された女学校で、淑徳女学校跡を見学し、中条八幡神社へ。

この神社は仁和元年(805)豊後国の宇佐八幡宮より勧進したとある。湯野の小山池辺りにあったとされる国分尼寺の鎮守神として中条藤森に八幡神を祀っていたとのこと。永正3年(1506)現在地へ遷座。中条地区の産土神として、さらに下御領・湯野・箱田・徳田・中条・道上・山野の八ヶ村の総氏神として崇拜されているとのこと。この地を治めた毛利氏や水野氏の庇護を受け、元禄12年(1699)に本殿が再建されたことが知られている。

単層の檜皮葺建築で四方の墓股には十二支の動物があしらわれており、本殿の前には建築と同時に西中条村の松井弥治兵衛が寄進した石灯籠が建ち、往時の姿が偲ばれる。

天候に恵まれた晩秋の一日、中条地域の貴重な遺産に触れ、全員元気に交流館に帰着した。

二人のガイドさんは言うまでもなく、手作りの資料や救急用の車の手配など菅茶山記念館のスタッフの準備と配慮に感謝。

〔参加者からの嬉しい感想文〕

C・Hさん(市内御幸町在住)

お天気に恵まれ、ハイクには絶好でした。このハイクに参加することでできたのは「菅茶山記念館」に



「象山献灯」前にて

初めて足を踏み入れた日にハイクのお誘い掲示物を見たからです。菅茶山さんのお名前は知っていましたが、「漢詩かあ、私には無理だわ」とこの一生興味を持つことなどありえないと思っていました。しかし、この数年、テレビで中国の時代劇ドラマを観るようになり、出演者のセリフ等には漢詩がよく使われています。

「ん？どういう意味？」  
「わからんわ、でも知りたい」  
好奇心が湧いてきたのです。

「そっだ、漢詩と言えば神辺にあるじゃあないか。菅茶山記念館に行こう」となったわけである。

展示物をじっくり読み、テレビ映像もチェック。いざ、展示コーナーへ。

「ああ・達筆すぎて読めせん」でも茶山さんの人となりがちよっぴりだけ知ることができた。知ると知らないではポエムハイクの楽しみ方には雲泥の差がついたと思う。

約8kmコース。茶山顕彰会のガイドさんがゆかりの地でゆかりの詩を朗読・説明があり、理解を深めることができ、クイズも大うけでした。さらに、参加者の安全と体調管理を見守っていただいたスタッフの方、中条の歴史を説明していただいたガイドさんにも感謝しています。アカデミックなフィールドワークを体験させていただいたことはとてもラッキーでした。いただいた資料を基にこのコースを友人を誘って歩くつもりです。次回も期待しています。



松風館十勝碑林前にて

〈来年も一緒に歩きましょうね。 編集部〉

講演会・展示会

一 菅茶山記念館2023年収蔵作品展

◎収蔵作品展「春」 4月4日～5月28日

- ・『花月吟』 茶山の遊学期の詩集。
- ・『筆のすさび』四巻 身近な様々な事象や奇談など茶山独自の視点で書き表した随筆集
- ・『梅花七首 四・五』 茶山の愛した梅を詠む
- ・『牡丹図』 平田玉蘊画に道光上人の賛、
- ・『楊貴妃図』 平田玉蘊画に茶山の賛
- ・『花鳥図』 平田玉蘊 春の花鳥を描いたもの
- ・平田玉蘊については、昨年顕彰会研修旅行で、尾道の持光寺を訪ねたこともあり、関心をもつて鑑賞できたのではないか。

○茶山の後継者菅三郎（自牧齋）の詩が紹介される

「送別」 菅自牧齋

江上送君楊柳春 江上君を送る楊柳の春

路程多興与誰親 路程は興多く誰と親しむ

都門此去千餘里 都門此れを去れば千餘里

聽鳥看花亦愴神 鳥を聴き花を看れば亦た愴神

【大意】君を贈る川辺は柳が芽吹いてもうすっかり春である。君が帰る道筋には興味深いことが多く、君は誰と交わるのであろうか。都のこの門を出て別れば千余里も離れてしまい、鳥のさえずりを聴き花を見ても一層悲しみが深まる。

◎収蔵作品展「夏」 5月31日～9月3日

- ・「松島路上所見」「環碧楼」など墨書の屏風
- ・「病中暑甚想舊事而作六首」六曲屏風、菅茶山

- ・「玉蜀黍」「村居二首」二曲屏風、菅茶山
- ・「山水釣図」頼杏坪画・菅茶山賛
- ・「暮春十八日野歩聯句」西山拙斎・道光上人と三人で聯句をしたためたもの

「玉蜀黍」 詩集後編四一九 茶山64歳

葉如羅帶實鮫函 葉は羅帶の如く 實は鮫函

貴種何年來海南 貴種何れの年か海南より来たりし

怪見秋風動禾黍 怪しみ見る秋風禾黍を動かすとき

幾枝牦牦紫氍毹 幾枝の牦牦紫氍毹

【大意】葉はうす絹の帯の如く、実は鮫皮（さめがわ）のよろいのようである。この風変わりな植物は、いつ頃に我が国にもたらされたのか。秋風がイネやキビを吹き渡っていく頃になると、いくつもの牦子が紫色の長い毛を揺さぶっているのを怪訝な思いで眺める。

\* 牦子（ほつす） 僧侶が持つ毛の長い仏具

【一口メモ】「玉蜀黍」を漢詩で読んでいるのは茶山ぐらいだらう。まさしく茶山の真骨頂である。

◎収蔵作品展「秋」 9月6日～12月3日

- ・「神辺宿」油絵、画武永楨雄
- ・「菅茶山先生廉塾址黄葉夕日舎図」松島一晃
- ・「牧牛」「秋日雜詠十二首のうち」菅茶山
- ・「移居築園雜詠十二首」のうち 頼山陽
- ・「暮秋」「黄菊」など金島桂華の作品
- ・「柿」猪原大華の作品
- ・猪原大華 神辺町八尋に生まれる。18歳から画家を志し、土田麦僊等に師事。内閣総理大臣賞などを受賞。日展審査員。大学など美術教育にも従事。
- ・金島桂華 神辺町湯野に生まれる。14歳から日

本画を学ぶ。自然界の風物をありのままに描く花鳥画家として定評がある。日本芸術院会員、日展理事

牧牛 詩集遺稿五十四 茶山 78歳

全村數里樹依微 全村數里樹 依微たり

四野蒼茫暮靄圍 四野蒼茫として暮靄圍む

新貨山童未諳路 新たに山童を賃えども 未だ路を諳らんぜず

縦横只信老牛歸 縦横 只だ老牛に信せ帰る

【大意】村里ははるかに樹々がかすんで見える。そこに夕暮れのもやがたちこめだした。新しく雇った山の子は、未だ家までの道を覚え、あちこちと老牛にまかせて家に帰っている。

◎特別展 菅茶山生誕275年「菅茶山と四条派の

絵師たち」 9月6日～10月15日

- ・「鶉図」 画貞春
- ・「虎龍図」 松村景文・岡本豊彦
- ・「天神図」 岡本豊彦・賛菅茶山
- ・「孔雀図」 岸駒・賛菅茶山
- ・「柳陰馬人物図」 画柴田義董・賛亀田鵬斎
- ・「寒漁舎図」 頼山陽

菅茶山は幅広い交友関係を持ち、武士・医者・僧侶といった様々な身分・職業の人々があり、画人も多い。多くの書画作品に着賛している茶山は四条派の祖・呉春の面を最も好んでいたと言われている。菅茶山関係史料には、呉春や岡本豊彦など四条派の絵師たちとの交友が記されている。

◎収蔵作品展「冬」 12月6日～3月31日

- ・「元日口号」「梅歌七首」の内六・七
- ・「梅十二首」の内九
- ・「蝶七首」の内六首

- ・「早到法成寺村」
- ・「白梅図」
- ・「即時」
- ・「米山寺小早川中納言肖像に拝謁す」
- ・「白梅図」宇野蘭筆、菅茶山賛 など

\*当時の文人たちの多くは、寒さの中に凜として咲く「梅」に心を寄せている。茶山の梅好きは有名で、それを自認しており、多くの梅に関する詩を詠んでいる。文政10年2月、この年8月に死去しており、最晩年の詩が展示されたので紹介する。

即時 詩集遺稿七十一 茶山 80歳

山童持帚道書詩 山童、紙を持って詩を書せと道う

老嫻揮毫人所知 老いて揮毫に嫻きは人の知る所

今速應求吾有意 今速かに求めに應ずるは、吾に意有り

れと

明朝糞掘早梅來 明朝糞うは早に梅を掘して來

れと

【大意】山の子どもが紙を持って、来て詩を書けと言う。老いて揮毫するのは気が進まぬことは人の知っているとおり。今、求めに應じるのは下心があつてのことだ。明朝早く梅の枝を折って来てもらいたいからだ。

二 県立歴史博物館「菅茶山関係史料」ご案内

草戸千軒ミュージアム(広島県立歴史博物館)の近世文化展示室では、博物館所蔵の重要文化財「菅茶山関係史料」の中から、通年展示の「菅茶山と廉塾」に併せて、テーマごとの特別展示をしているので紹介する。

(以下取材メモ)

第27回4月1日～5月31日

特別展示「廉塾の器物」

茶山は日本各地の文人たちとの交流や福山藩儒の業務を通じて収集した書画や器物、古文書や絵図などを紹介。主な展示は次のとおり。

○ガラス盃(藩主正精から拝領) ○盃(松平定信から70歳を祝って贈られる) ○磁盃(松平定信から送られた盃) ○『朴斎先生詩鈔』『山陽遺稿』なども展示 ○古盃(上杉謙信が千枚作り、出兵時に兵士に酒をふるまったといわれる盃。文化3年米沢藩侍医平田道宣から送られた) 茶山は次の詩を詠む

米澤平田道宣惠古杯先公謙信所用勞將士者 賦此言謝 詩集前編八十八

古盞開函古色奇 古盞 函を開けば古色奇なり

會聞當日稿輿師 會て聞く当日輿師を稿しと

愍紅或恐英雄血 愍紅 或は恐る英雄の血ならんかと

堪想河洲塵戰時 想うに堪たり河洲塵戰の時

〔盞〕杯〔輿師〕大勢の兵士〔愍紅〕深紅色〔河洲塵戰〕川中島合戦

第28回7月29日～9月24日

特別展示「茶山と岡山文化」

岡山藩は「藩校」や「閑谷学校」などの教育環境が整い、藩士だけでなく民間に儒学者・歌人・画家など多くの文人を生み出していた。特に閑谷学校の情報(儀式等)は廉塾に影響を与えている。茶山と西山拙齋との交友はよく知られているが、武元登々庵から「押韻」について、小寺清先から和歌について影響を受けている。茶山と交流のあった文人は、武元君立・小原梅坡・姫井桃源・黒田陵山・井上四明・

中村岳州などを展示。豊韻は岡山藩儒井上四明と七言律詩の押韻について論じたもので、興味深い。その他の展示

○西山拙斎詩鈔○陶板「黄葉夕陽邸舎」○奥遊詩画卷○関谷学校正月そなへ物など

第29回9月29日〜11月26日

特別展示「菅茶山と朝鮮通信使」

將軍の代替わりの際、訪れた朝鮮通信使が輓の浦に残したものと茶山との関りについての展示や通信使と交流した文人たちの遺した資料などを展示。

○「日東第一形勝拓本」○「菅茶山跋文拓本」○菅茶山の漢詩「對潮樓」○「菅良平跋文拓本」○「通信使漢詩拓本」客館筆語」などが展示される。

○初公開「客館筆語」について

文化8年(1811)接待場所(客館)で通信使と日本の学者たちが筆談した記録(客館筆語)の一部が展示された。六月廿一日の記録に

「僕姓樋口名太字子弘奥州會津人以所近溜水號曰溜川」

「僕は樋口といひます。名は太、字は子弘、奥州會津出身で家の近くにある溜水のような川に因んで溜川と名乗っています」と自己紹介している。

第30回12月1日〜1月28日

特別展示「長寿を寿ぐ」菅茶山は当時としては長

寿で、文政10年80歳で亡くなっているが、節目の60歳70歳80歳にあたっては各方面から寿詩や絵画などを贈られている。

・菅茶山先生六十寿詩〜等々庵兄弟詩巻など

・茶山七十賀寿詩巻〜松平定信より寿歌と寿杯など

・菅茶山先生八十寿書画帖また、田内月堂より寿杯、谷文晁より「磻磻跪餌圖」(岡本花亭の賛)な

ど各方面からの祝詩や品物が届く。これらから茶山の交遊の広さがわかる。

これらの寿詩や絵画をもらった茶山は、

「七十自嘲」の詩を詠んでいる(詩集後巻七)

疎拙從來世所嗤 疎拙 從來 世の嗤う所

今春七十轉添痴 今春七十 轉痴を添う

不知身上殘齡減 知らず 身上 殘齡の減ずるを

猶且欣欣把壽厄 猶お且つ欣欣として壽厄を把る

第31回2月2日〜3月31日

特別展示「菅茶山と考古関係史料」

茶山は考古遺物に関心を持ち情報収集に余念がなかったことはよく知られている。「神村出土銅鐸拓本」「出口村出土須恵器下絵」「環状須恵器図」などが「福山志料」に記載されていることは周知のことである。今回展示された主なもの、

・「多賀城碑」拓本。「石川年足卿墓誌」「銅製骨蔵器銘文」「台付須恵器・丸底埴図」「諸国古物の記録」「勾玉問答」「平瓦」など

・「多賀城碑」〜天平宝字6年(762)に建立された石碑で、資料はその碑面の精巧な木版刷り。この碑は江戸時代前期に発見された。碑は高さ196センチ・幅92センチの碑面には、平城京や当時の

国々の境界からの距離や、多賀城の創建・修造などについて141文字でつづられています。また、この碑は書道史上重要な日本三古碑の一つに数えられている。

・平瓦破片「〜奈良時代の貴族吉備真備の館跡から出土した平瓦といわれるもの。吉備真備は、備中下道郡を拠点とする地方氏族出身で、遣唐使として2回中国に渡るなど豊富な国際感覚を持ち、右大臣迄

まで昇進した人物である。茶山はその一つを米沢藩医平田道宣に送っており、お礼の漢詩「菅先生見惠吉備公旧宅古瓦賦此奉謝」(詩集前一一十三)が展示された。吉備真備については、令和元年(2019)研修旅行で吉備真備公園を訪ね、記念館や槐の木等を見学したこともあり懐かしく思った。

○博物館大学 12月23日 県博地下講堂

演題「菅茶山関係史料に見る吉備津神社」

講師 広島県立歴史博物館主任学芸員 岡野将士

「備後一宮吉備津神社展」〜備後有数の由緒をもつ神社で大修理完成を記念した企画展が行われ、講演会が実施された。

○菅茶山と吉備津神社の関係〜茶山を中心にして編纂された『福山志料』と『風俗御問状答書』中にある神社についての記述を紹介している。

『福山志料』〜宮内村の項に「福山ヨリ廿三里二十六町、村東西三十町、南北一里二町傍示二枚アリ、吉備津ノウチナレハ、カク名ツケシヨシ」とあり、境内図も記載している。『風俗御問状答書』では社家と吉田官の関り。参詣者の事や宝物下絵の綴り(太刀・釣燈籠など)や雅楽関係では神楽面や神楽譜などが記載してある。

三 神辺交流館

○(一)講演会 菅茶山とゆかりの画人たち

日時 10月12日 場所 神辺交流館

講師 中村麻里子(福山美術館学芸課次長)

・画人たちとの交流の様子

大原吞響、蠣崎波響、谷文晁らと交流している

・茶山の好んだ画人・四条派の呉春

「田能村竹田『山中人饒舌』の中に

「皆川淇園翁の長澤芦雪、村瀬翁の蕪村、亀井南冥の月僊、茶山翁の松村月溪（呉春）・・・人の好みが一様でないことは、このようなことである」（元漢文）ことから、茶山は四条派の呉春の絵を好んでいたことがわかる。

・多くの詩箋に出掛けており、茶山は知り合った画人から賛を求められている。その中には釧雲泉や岡本豊彦、黒田綾山などがいる。  
 ・女流画人平田玉蘊との交流はよく知られている。

（二）講演会 「神辺本陣の現存は奇跡か」

～各地の現存本陣の取材から～

講師 神辺宿文化研究会副会長 菅波哲郎

①本陣とは～江戸時代、幕府御用や参勤交代大名通行者などの公用通行者の休泊の施設

②建物 3つの部分から成り立つ

本陣部（座敷部・表門の外構）、居住部（本陣主人と家族の住い部）家業部（経営の経済的施設）

③（取材した）各地の現存する本陣・脇本陣157宿 東海道の5街道以外にも多くの路があり、それこれには本陣・脇本陣が存在した。（大和路など）

④国指定の文化財 国指定史跡6件その他は重文。

⑤各地の現存本陣の状況

○座敷棟・居住部・家業部が残る

草津宿本陣（東海道）・郡山宿本陣（山崎街道）等

平戸街道の江迎宿本陣山下家・平戸松浦家藩主の参勤交代や長崎港警備へ出向く際に平戸藩侯専用の御旅舎で建物がよく保存され、家業（酒造）も継続。

○座敷棟と居住部・家業部を構成

五料茶屋本陣（中山道）横川本陣（中山道茶屋本陣）

○その他、表門・座敷部だけが現存する。また、座敷部だけが保存されているなど様々な形で伝わっている。

⑥本陣建物と宿場町火災

殆どの本陣が火災で焼失し再建されている。

・二川本陣（東海道）～享保20年（1735）宝暦3年（1753）文化3年（1806）文化4年

・草津本陣（東海道）3回焼失など

・今庄宿（北陸道）江戸時代4回の大火。

⑦防火への願い

・「波兎」（はと）を彫った欄間や隠し釘を使用。

・「鬼瓦」に「水」の字を画く。

・「懸魚」の彫り物。屋根に水と縁のある魚の彫り物。

・宿場の街道に水路を引き、防火用水の役割。

⑧現存する神辺本陣の奇跡とは

・各地の現存本陣の中で概ね古い遺構である。

・本陣遺構として座敷部、居住部が現存。

・文化4年の神辺大火から類焼を免れたこと。

通りの南側七日市・三日市・後町など全焼

・本陣門構と大名行列が描かれた現存する唯一の本陣

（文責編集子）

四 「菅茶山の足跡を訪ねて」

「広報ふくやま」の歴史散歩に連載中

福山市の広報誌「歴史散歩」コーナーで菅茶山の

ゆかりの地等が紹介されている。菅茶山顕彰会の学

習会やポエムハイクで取り上げた内容でもあるが、

次号はなにが取り上げられるか楽しみである。

4月 龍泉寺桜。 5月 松風館跡

6月 箱田道中 7月 石碑「神辺驛」

8月 自然科学へのまなざし 9月岡本池の碑

10月 廉塾規約 11月 対潮楼からの眺め。

12月 菅茶山と頼山陽 1月 左義長（とんど）

2月 西福寺の梅 3月 広島県史跡菅茶山墓

黄葉だより

一 地域の小・中・高生による

神辺本陣「動く江戸空間」開催される

期日 11月5日（日）

会場 神辺本陣・三日市通

主催 一般財団法人菅波教育文化財団・地域の小

中高生による神辺本陣「動く江戸空間」実行委員

会

昨年引き続き2回目の開催。黒田家行列では、藩主の駕籠が登場。行列に参加する子どもたちの人数も増えて堂々の行列であった。本陣内では、建物や間取りの説明、論語の素読、茶席、交流喫茶、箏曲演奏な神辺高校の生徒たちが主役で実施され、多くの見学者で賑わっていた。



開かれた本陣の正門



生徒たちによる行列

二第6回地域遺産フォーラムIN神辺 11月18日

○第1回神辺地域遺産認定

神辺学区まちづくり委員会が中心となり、有識者を交えた神辺遺産選定委員会が決定された。

この日、認定式が行われ、早王地区はね踊りの実演も行われた。

選定されたのは次のとおり。

- ・天別豊姫神社、
- ・旧菅波邸カフェ・アンジン
- ・早王のはね踊り、
- ・三日市・後町のはね踊り

今後遺すべき大切なものを遺産認定していくとのこと。

○まちづくり大学「公開講座」  
地域遺産から考える大切なものの遺し方」講師 早稲田

大学リサーチイノベーションセンター次席研究員山川志典氏。  
各地の地域遺産を遺す取り組みを紹介される。

午後から場所を旧菅波邸カフェアンジンに移して福山大学生による基調提案や琴演奏も行われた。



認定式の様子

### 三 2023年度堂々川砂留同好会10大ニュース

#### 「螢・彼岸花・砂留守護17年」

顧問 上 泰二

12月26日、「堂々川砂留同好会」がお馴染みの2023年度10大ニュースを発表した。

(一)ホテル飛翔数前年比10% 温暖化か？

(二)彼岸花開花数県下トップ

7月以降植込球根数22万本、色彩19色

珍種ダイヤモンドリリーが盗掘被害

(三)砂留 35年前、水害により63名の犠牲者。そのに学び砂留築造。爾来、今日に至るまで同好会の維持管理奉仕により地域の安心・安全を守り続けている。

(四)被害防止対策 野獣猪十人

有志による電柵の設置で猪被害は減少したが、

被害総数12万本以上。

(五)堂々川水質調査結果 「きれい」に

きれいな水に住む指標生物からの判断

(六)鉄面皮(某企業)の犯罪に疲労困憊

事故防止のため立ち入れない川の中の不法投棄

45ト×5袋

(七)表彰2件

・福山城100周年感謝状表彰

・善行市民団体賞受賞

(八)冊子「堂々川の貴重な生物たち」(仮題)

出版「福山大学生命工学科」

2023年7月、びんご自然史研究会(会長阪本憲司 福大)がびんご地域の自然環境とそこに棲息している生物に関する知見と理解を深めることを目的として発足。冊子中に「堂々川ホテルの会」の土肥徳之氏が寄稿。内容は、堂々川に生息する動物たちについて細やかな観察眼をもってしたものである。

(九)ノミニケーション

「会員の慰労&コミュニケーション」を仲人に

「砂留女子」結婚の朗報が伝えられる。

(十)小学生の砂留P.R.活動

小学生が描いたポスター60本が、堂々川岸に勢揃い。新成人となる同好会員の近い将来を承継するSDGSを公開した。

### 四 福山大学第3回文化フォーラム

「中世の福山の文学的背景」

―戦国時代の福山と足利義昭の周辺―

講師 田口義之(備陽史探訪の会々長)

(一)境目の国「備後」の中世

・「足利氏、鞆に起こり、鞆に滅ぶ」

室町殿御分国の西端に位置する芸備地方

守護大名と奉公衆、備後南部の豪族が務める

(二)東山文化と備後国

・連歌師の来遇「月村斎宗碩」の連歌集

・世羅太田荘の地頭・渡辺越中守の名前が見える。

・在地領主の造寺・造仏、地方豪族が中央の寺院を

建立したり、本山の僧侶により文学が伝わる

・足利氏の「鞆動座」

義昭を歓待する国衆、動乱により鞆から津之郷へ

(三)義昭の残影と残された遺跡、義昭の墓

### 五 廉塾バラの接ぎ木講習会が開かれる

昨年引き続き「廉塾バラ」の普及に向けて講習会が4回開かれた。主催は神辺宿文化研究会で2回、かななべ図書館と共催で2回行われた。かななべ図書館での講習会を取材した。

1月28日(日)会場には約20名の参加があり、親子での参加も見られた。

講師は上田善弘さん(福山バラ会)

今回は「挿し木」でなく

「接ぎ木」による方法で、

野ばらの根に「廉塾バラ」

の小枝を接ぎ木する方法。

昨年より難易度が上がり、

用意された柳で練習した後

本番へ。

「挿し木」より開花が早い

とのこと、四苦八苦しながら挑戦。講師にアドバイスを受けながら取り組む姿が見られた。

講習会は今後も神辺交流館で行われるとのこと。

接ぎ木された廉塾バラは、JR神辺駅周辺の花壇に

も植えられるとのことである。

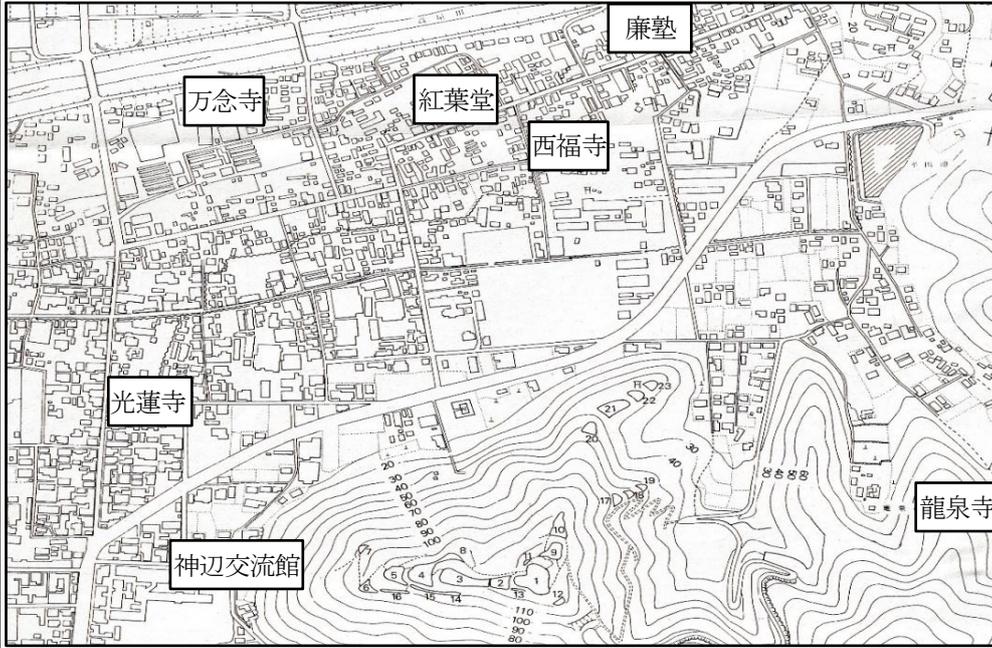


講師に指導を受けながら取り組む親子

ぶらり散歩しませんか

〜神辺宿にみる茶山石碑を訪ねて〜

昨年、茶山生誕275年祭を実施し、多くの参加者を迎えることができた。茶山を知るために廉塾や茶山の石碑をぶらり訪ねてみませんか。神辺宿にある石碑を紹介します。



(一) 神辺町川北 龍泉寺

「龍泉寺桜」

老樹移來幾百年

年年麗艶占芳辰

林東在墓生苔鮮

曾是花前酒人

詩集前編二一九

老樹移し來つて幾百春

年年麗艶芳辰を占む

林東墓有り 苔鮮を生ず

曾是花前 酒を闘わせし人

【麗艶】なまめかしい、うるわしく。【芳辰】香しい春の日。【苔鮮】こけ。【墓】蘭水（藤井暮庵の父、治郎左衛門）の墓所

【大意】桜の老樹を移し植えて幾たび春が過ぎたであらうか。年々美しくあでやかにこの春をほしままに咲き誇っている。林の東には墓があり、苔が生えている。かつて生前には、この花の前で酒を酌み交わした相手（蘭水）であったのに



【一口メモ】

藤井蘭水は川南村の庄屋職を務め、茶山の塾に子の暮庵を通わせたり、支援するなど、茶山を支えた人。暮庵は廉塾の都講となる寺の裏手に藤井家の墓域がある

(二) 神辺町川北 西福寺

「西福寺賞梅」

品茶琢句坐斜陽

閑事偏知春日長

暮鳥還棲驚有客

詩集前編六一

茶を品し句を琢して斜陽に座し

閑事偏えに春日の長きを知る

暮鳥棲に還り客有るに驚く

梅花花底小僧房 梅花花底 小僧房

【品茶】お茶の品定めをする【琢】玉をみがくこと【棲】すまか、ねぐら。【僧房】僧侶の住む建物【大意】茶を楽しむ詩をひねり、夕陽がさすまで座っている。閑暇を呑気に過ごすものには、まったく春の日は長い。小鳥がねぐらに帰ってきて、客（茶山たち）がいるのに驚いたらしい。梅の花盛りにつつまれた僧房の一日に満足した。



西福寺での詩会の様子 (信道一代記より)

(三) 神辺町川北 七日市通 紅葉堂前

「神辺驛」

黄葉山前古郡城

空濠荒驛半榛荆

一區蔬圃羽柴館

數戸村烟毛利營

詩集前編五一一九

黄葉山前 古郡城

空濠荒驛（半ば榛荆

一區の蔬圃は羽柴の館

數戸の村烟は毛利の營

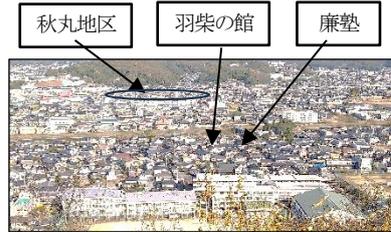
【古郡城】昔の城下町。「榛荆」榛は、はんの木だがここでは雑木、荊はいばらでトゲのある木の茂み

〔蔬圃〕野菜畑。〔羽柴館〕羽柴秀吉の泊まった館の場所〔毛利宮〕毛利軍の陣営跡。現在の秋丸地区  
 【大意】黄葉山の麓は古の城下。濠の水は涸れ宿場はかつての羽柴秀吉の泊まった館の跡、また、五、六軒の煙のたつているあたりは毛利軍の陣営跡だという。

【一口メモ】

この詩は神辺城址から北方を眺めた写真である。

茶山は詩友と神辺城址に登っており、山頂部から詠んだのである。



四 神辺町川北 萬念寺

〔夏日雑詩〕 十二首の三 詩集後編八一

垂楊園饒古書楼

すいよういじょう こしやうろう  
 垂楊園饒 古書楼

遮断村声事亦幽

せんせい しやさん  
 村声を遮断して事も亦幽なり

知是隣房催會講

これりんぼう かいこう もよお  
 知る是隣房 会講を催す

亂條陰裏夜吹竽

らんじょういんり  
 亂條陰裏 夜笛を吹く

〔園饒〕ぐるりと取り囲むこと〔書楼〕書物を蔵する二階屋（廉塾のこと）〔隣房〕隣の家〔會講〕寄り合つて相談すること〔陰裏〕日の当たらない所、日陰

〔竽〕笛

【大意】しだれ柳が古い塾舎を取り囲み、村の物音を遮り絶つてすべての営みもまた静かである。隣の家では寄り合いがあるとみえ、風に乱れる柳の枝の

陰のあたりで夜にあたって笛を吹く音が聞こえてくる

【一口メモ】萬念寺は菅波一族の旦那寺である。茶山の先妻、内海氏爲の墓所がある



萬念寺に建つ詩碑



光蓮寺に建つ詩碑

五 神辺町川南 光蓮寺

「十四日與嶺松師赴輶浦途中口占」

十四日嶺松師と輶浦に赴く途中口占す

詩集前編一十七

牛渚清遊久有期

ぎゅうちうしよ 牛渚の清遊 久しく期有り

忽乘新霽試策杖

たちま しんせい 忽ち新霽に乗じて策杖を試みる

喜看遠嶺生霞彩

えんれい かさい 喜び看る遠嶺に霞彩の生ずるを

明夜陰晴已可知

みょうや いんせい すで 明夜の陰晴 已に知る可し

嶺松師 光蓮寺住職。茶山の詩友。

〔口占〕口ずさむ。〔牛渚〕揚子江の月の名所、ここでは輶浦での月見。〔霽〕晴れる。雨や雪が止む。〔策杖〕竹で作った杖。〔明夜〕明日の夜。〔陰晴〕曇りか晴れるか。

【大意】輶の浦で清遊（月見）をすることは以前からの約束で期待していた。急に天気も晴れたので杖をついて探勝することにした。遠くの山に美しいもやがかかっており眺めは格別だ。これなら、明日十五夜の晴天はもう決まったようなものだ。

【一口メモ】

嶺松上人は高屋川の浚渫工事に貢献し、藩から表彰されている。茶山とは家族ぐるみの付き合いで、妻たちは女子会を度々開いている。しかし、上人は經典の解釈を巡り本山と対立、京都に呼ばれて喚問される途中に京の宿で亡くなる。

六 神辺町川北 神辺交流館

「丁谷餞子成卒賦」 詩集遺稿卷四一十四

丁谷に子成を餞りて卒かに賦す

數宵閑話每三更

数宵の閑話 每三更

未盡化離十載情

未だ盡きず 化離十載の情

送者停筇客頗顧

送者は筇を停め客は頻りに顧みる

梅花香裏夕陽傾

梅花香裏 夕陽傾く

〔丁谷〕神辺町川南にある谷、現在でも梅林がある〔子成〕頼山陽の字〔三更〕一夜を五等分した真ん中、午前零頃〔化離〕人と別離する〔十載〕十年

【大意】幾夜にわたり深夜まで語り合ったが、それでも十年間別れて過ぎた間のつもる話は尽きない自分は杖を立て見送り、客（頼山陽）はしきりに振り返りだんだん遠くなる。そうしているうちに、この梅の匂う里に夕陽が傾いてきた。

【一口メモ】山陽は廉塾を飛び出して京へ。その後紆余曲折があつたが、師弟関係を築いてきた。広島から京都に還る途次山陽は茶山を訪ねる。茶山は77歳となり、これが会える最後ではないかと危惧し丁谷で饞宴の会を開く。

送る者、送られる者も名残り惜しく別れていく姿が想像でき



福山市ガバメントクラウドファンディング  
**募金活動にご協力を**

〜顕彰会として募金を応援したい〜

福山市は「廉塾ならびに菅茶山旧宅」の改修工事の資金集めのクラウドファンディングを実施している。

第1期として昨年一千万円を設定して取り組み12月末で一千百万円を超える浄財が寄せられた。顕彰会では「菅茶山生誕275年祭」で募金のお知らせ文を配布した。

菅茶山顕彰会としても、これに寄与することが求められており、具体的にどう取り組むかについては令和6年度の理事会で方針を決定したい。



福山市ガバメントクラウドファンディング  
江戸時代の教育環境を今に伝える  
廉塾ならびに菅茶山旧宅を未来へ

クラウドファンディングのトップページ

廉塾修理作業中の様子



シートに覆われた講堂正面



講堂屋根の修理

茶山ポエム絵画展

二〇二三年度茶山ポエム絵画展表彰式

〜豊かな子どもたちの心に触れる作品一堂に〜

1月13日(土)菅茶山記念館で第31回受賞式が開催された。「コロナ感染が5類」となり、来賓・学校関係者・保護者等が会しての表彰式となった。当日、菅茶山記念館には、入選した町内外の幼小中学校の児童・生徒の作品が所狭しと掲示された。どの絵画も茶山詩に触れて、感じたイメージを基に描いた力作で、子どもたちの豊かな心に触れることができる。応募作品は3739点で、その内から110点の入賞作品が選ばれた。

昨年は冊子『茶山ポエム絵画展三十年の歩み』を発刊(前述p9)し、各学校に配布し教師や児童生徒達の参考になるよう取り組んだ成果の一つが、応募点数約500点の増加につながったと考えらる。

菅茶山顕彰会の重要な活動として、菅茶山記念館と連携したい。

表彰式の様子を紹介。



式に参列の皆さん



あいさつ  
ふくやま芸術文化財団事務局長  
矢野 隆正様

講評  
神辺美術協会会長  
石岡 洋三 様



最優秀賞には、左記の作品が選ばれた。



「夕日」  
福山市立道上小学校  
3年生 田邊 昊良 君

学年別最優秀賞受賞者は次の皆さん(敬称略)

- ・安原 結衣(誠信幼稚園) 「久しぶりの晴天」
- ・矢田 明莉(竹尋小1年生) 「ホタル」
- ・青山 泉翔(神辺小2年生) 「蝶」
- ・田邊 昊良(道上小3年生) 「夕日」
- ・徳永 晴輝(湯田小4年生) 「雪の日」
- ・池田 優空(中条小5年生) 「ホタル」
- ・出原 愛(神辺小6年生) 「御領山大石の歌」
- ・林田 りら(鳳中学校) 「夕日」

ポエム絵画入選点数

- ・最優秀賞8点
  - ・優秀賞102点
  - ・入選392点
- 応募学校数
- ・保育所・幼稚園 2園
  - ・小学校 8校
  - ・中・高校 10校

「ポエム絵画」を広く知ってもらうために  
 保幼・小・中・高校生の茶山ポエム絵画作品を紹介すると共に、創作意欲を高めるための様々な機会をとらえてその作品を掲示している。

作品展の開催（菅茶山記念館以外）

- 神辺街なみ格子戸展（春） 4月29日～5月7日
- 神辺図書館展 1回目6月21日～7月3日  
2回目7月5日～17日
- 深安地区医院展（13医院） 8月1日～31日
- 市役所ロビー展 8月4日～8日
- 神辺街なみ格子戸展（秋） 10月21日～25日
- 深安地区歯科医院展（8医院） 11月1日～30日
- 神辺支所エントランス展 12月12日～22日



記念館職員と顕彰会員で掲示作業



ポエム絵画展を知らせる菅茶山記念館



絵画 502 点を掲示

「ボランティアを求む」

年間を通してのポエム絵画展開催は、手間のかかる作業で、特に菅茶山記念館での作業は、絵画に名札を付けた約500点の絵画の掲示などでボランティアの協力を得たい。協力していただける方は、事務局や会員まで声をかけていただきたい。

作品展の様子



神辺街なみ格子戸展（10月）



菅茶山生誕 275 年祭（10月）



神辺図書館展（6月）



神辺支所エントランス展（12月）



廉塾まつり（10月）



福山市役所ロビー展（8月）

編集後記

◇ 正月、能登半島地震・羽田空港の航空機事故があり暗いニュースで始まった。能登地方の一刻も早い復興を願うばかりである。遠く離れた私たちに何ができるのかを考え、行動をとることが求められている。

◇ 昨年は「菅茶山生誕275年祭」という大きな行事に取り組み、多くの参加を得ることが出来たり、山陽新聞より「奨励賞・文化部門」を受賞した。振り返れば、令和3年度広島県教育奨励賞も受賞しており菅茶山顕彰会の存在と取り組みが評価されている。

しかし、漢字離れ、漢詩離れが進み、漢詩への関心が低下しているという厳しい現実もある。

◇ 顕彰会では会員の高齢化と若い会員の入会が減少するなどの課題に直面しており、今後の活動のあり様が問われている。

◇ 廉塾では修復工事の槌音が響いており、「学種を残す」という茶山の願いを受け止め、顕彰会として募金活動に取り組み必要がある。

◇ 紙面をA4サイズに変更。読みやすくするために文字も大きく、写真を多く掲載した。ご意見・ご感想をお待ちしている。  
(文責 黒瀬道隆)

◎菅茶山顕彰会事務局  
武田 恂治

連絡メール info@chazan.click

◎会報編集委員

黒瀬道隆、上 泰二、川崎行輝、佐藤倫之、

松岡明美、山下英一、藤田卓三

◎ホームページ「菅茶山新報」

http://chazan.click

◎印刷所 社会福祉法人一れつ会 ウイズ

(福山市加茂町上賀茂805-1)

Tel 084-972-8686